



Data

監督・脚本: キウエテル・イジョフ
 オー
 原作: ウィリアム・カムクワンバ、
 プライアン・ミーラー『風を
 つかまえた少年』(文藝春秋
 刊)
 出演: マックスウェル・シンバ/キ
 ウエテル・イジョフ/オー/ア
 イサ・マイガノリリー・バン
 ダ/フィルベール・ファラケ
 ザ/レモハン・ツィパ/ノー
 マ・ドゥメズウエニ

■■ショートコメント■■

◆本作は2010年に日本でも出版されたウィリアム・カムクワンバの原作『風をつかまえた少年』を映画化したもの。同作は、世界最貧と言われるアフリカの農業国マラウイで、電気のない村に風力発電機を立てたという自分自身の体験を綴り、世界的ベストセラーになったノンフィクションだ。

◆困窮の中、学費も払えず退学させられる少年ウィリアム（マックスウェル・シンバ）だが、図書館で読んだ本で、風から電気を作れること、そして電力があれば井戸水をくみ上げ土地を潤せること、そうすれば飢えに苦しむこともなくなることを知り、風車を発明していくことに。しかし、ウィリアムの父・トライウェル（キウエテル・イジョフ）は頑迷な男で、今なお魔術や因習を信じていたから、そんな息子が作った試作品たる小さな風車を「いつまでもおもちゃで遊ぶな」と叫んで壊してしまうから困ったもの。そのため、ウィリアムがホンモノの風車を作るために、父親のトライウェルに自転車を出してくれと頼んでも、それを断固拒否。これでは、風車を作って井戸から水を田んぼに引くというウィリアムの構想の実現は前途多難だ。

◆そんな中盤までの衝突を経て、後半からはウィリアムに協力する友人たちと、気持ちを入れ替えたトライウェルの協力によって、見事に風車が完成。風車が回り始め、バッテリーの充電が終わると、井戸からくみ上げられた水がパイプを通じて田んぼへ流されていくことに。水さえあれば、種を植えれば収穫を待つだけだ。

◆そんな実話に基づく映画化は予定調和に進んでいくから、映画としての面白さはイマ

イチだが、アフリカの最貧国マラウイでこのような実話があったこと自体がすばらしい。
特に、子供たちが本作から学べることは多いはずだ。

2019（令和元）年8月16日記